

## 中宮光隆教授への献辞

総合管理学部長 三 浦 章

中宮光隆先生は、1982（昭和57）年4月に当時の熊本女子大学に助教授として着任され、以後30年間にわたり、総合管理学部の教育・研究の発展に大きく貢献され、偉大な足跡を残されました。2012（平成24）年3月31日付けで定年退職されるにあたり、先生のこれまでの総合管理学部および大学院アドミニストレーション研究科へのご貢献に感謝するため、さらに先生のご退職を記念して、記念号を捧げます。

中宮先生は、1946（昭和21）年9月のお生まれで、1965（昭和40）年に東京都立戸山高等学校をご卒業され、翌年4月に横浜市立大学商学部に入学されました。1970（昭和45）年3月に同経済学科を卒業後、慶応義塾大学大学院経済学研究科に進学され、理論経済学を学ばれ、1973（昭和48）年に修士課程を修了して、同博士課程に進学され、1979（昭和54）年3月には博士課程を単位取得満期退学されました。

その後、1981（昭和56）年4月から駒澤大学経済学部非常勤講師としてお勤めになり、翌1982（昭和57）年4月から本学の前身である熊本女子大学生生活科学部に助教授として着任されています。1994（平成6）年4月に熊本女子大学が熊本県立大学に改組し、さらに総合管理学部が発足するのと時を同じくして総合管理学部教授になられました。

先生の教育研究活動や大学の管理運営に関わるご活躍は多岐にわたるものがあり、とてもこの紙面では紹介しきれないのですが、それぞれの業績について要約してご紹介いたします。

先生の研究業績には、20編の編著書および13編の研究論文があります。研究

著書は、九州大学出版会やミネルヴァ書房などから刊行されています。

先生の研究活動は、先生自らが「二足のわらじを履いている」と述べられるのをしばしば耳にしましたが、大きく二つの分野であるように思われます。一つは経済学説史ないしは経済思想史という分野の研究で、一貫してフランスの古典派経済学者であるシスモンディ（1773年－1842年）について、探求されておられます。先生は、従来の過少消費説という解釈を斥けるだけでなく、彼の経済学の「異端」性に着目し、そこに現代的意義を存在することを強く主張されています。

もう一つは金融論の分野に関する研究で、特に現代ヨーロッパの国際金融の現状分析に心血を注がれています。先生の考えを理解する上で重要な概念は、「moneyed capital」ではなからうか、と思われます。この自立した資本は、生産過程に不安定な要因として反作用を及ぼすのであって、国際的な短期資本の自由な移動は必ずしも市場の均衡をもたらすことにはなりません。このような考えから、先生は、無批判的な市場主義や規制緩和を批判されるわけです。特に、1980年代以降に国際金融や国際資本市場で生じた現実を目にするとき、そして2008年のリーマン・ショックを経験した今、先生の教えに学ぶべきものが多くあるように思われてなりません。

先生のご研究は、一貫して日本および世界の現代経済事情と19世紀フランス語圏経済学説・経済思想史に関するものであり、研究スパンの長さや研究対象とする問題への取り組み姿勢は、研究という仕事に必要なとされるスタイルの模範をわれわれに示されているものと感じます。

研究を進める中で、シスモンディの経済学説の特徴について、それまでの通説的理解である「過少消費説」と決めつけるのは誤りで、市場をめぐる競争や分配の問題等を広くその論理の中に取り込んでいる、ということを示され、1997（平成9）年10月には、その成果を「シスモンディ経済学研究」というタイトルで、三嶺書房から著書として世に出されました。さらに、その著書を元に同タイトルにより、1999（平成11）年7月には、慶應義塾大学から博士（経済学）を授与されています。

この間、1989（平成元）年9月から1990（平成2）年9月まで、文部省公立医科大学等経常費等補助金（在外研究員費）によりフランスパリ第10大学（ナンテール）およびシアンス・ポリテイクにおかれて、(1)フランスを中心とした現代欧州の金融事情、(2)9世紀フランスの経済学説史の研究に従事されています。パリでの生活は非常に充実したご様子で、ご家族には「パリに来てわずか1～2か月で、これまで一生分の経験をしたような気分」と書き送ったとのことでした。

また、経済学史学会、金融学会、信用理論研究学会、証券経済学会、経済理論学会、生活経済学会、フランス経済学会等、様々な学会でご活躍されました。特に、生活経済学会では理事・九州部会長、証券経済学会では年報編集委員を、経済学史学会では西南部会幹事という重責を担われました。

本学の教育分野においては、学部全学共通科目として「現代社会と経済」を、学部専門科目として「金融の基礎」、「日本経済論」、「経済思想」等を、大学院博士前期課程では「経済学説史特殊講義」、「特別演習」を、同後期課程では「経済学説史特別研究」等の科目をご担当いただきました。

若かりし頃の先生は、学内だけではなく、時には居酒屋等での講義（？）もなさった、と耳にしました。先生がとても温厚な人柄で、学生を親身に思い、学生の間で慕われたからでもありましょう。今では、状況も時代とともに移ろい、学生と膝を交えて議論し合うことは難しくなりましたが、先生にとっては、寂しくもあり、また心残りの点であるかも知れません。

大学行政の面で、先生は1995（平成7）年4月から1999（平成11）年3月まで学生部長をなさっていました。学生部長とは現在の副学長に相当する役職で、教務・学生支援に関わる責任者です。さらに2002（平成14）年4月から2006（平成18）年3月まで学部長という要職に就かれ、本学の運営面における中心的存在として活躍されました。2006（平成18）年4月には本学の公立学校法人化の時期であり、それに向け学部の礎作りに向け積極的に取り組まれています。

当時、全ての決定は、まず教授会で審議して承認されることが必要でした。従って、多くの案件を教授会で承認＝決定し、その後、数多く設置された全学の委員会・小委員会あるいは全学の「運営会議」や正規の最高議決機関である「評議会」で審議し決定するという手続きを取っておりました。そのため、1日に3～4回の会議に出席することもしばしばあったとのこと。同時期には大学院アドミニ研究科に看護管理コースを設置する諸準備も並行して行われておりましたので、多忙を極めていました。先生のアイデア、判断力、人的ネットワーク、行動力には目を見張るものがあり、この時にもこれらの諸々の能力を総動員してリーダーシップをいかんなく発揮されています。

社会活動の分野では、行財政問題に関心を示され、行財政問題や消費者問題に関わる各種審議会に積極的に参加され、ご活躍いただきました。

特筆すべき点としては、2003（平成15）年4月の総務大臣表彰受賞が挙げられます。これは、九州郵政局金融懇談会のメンバーとして金融研究会を作り定期的に報告会を行って郵政事業に貢献した功績によるものです。

このように先生は、研究者として優れた業績を挙げられ学術の発展・振興に寄与されたほか、教育者としても優秀な人材を数多く世に送り出されました。また、大学行政におけるご功績にもまことに顕著なものがあります。さらには各種審議会活動を通じた地域の発展に対するご貢献も大きなものがあります。

以上、中宮光隆先生のご経歴および30年間にわたる熊本県立大学におけるご業績について、簡単にではありますが、ご紹介させていただきました。最後に、熊本県立大学総合管理学部を代表して、先生が本学をご退職後も、引き続き経済学の研究分野で元気にご活躍を続けて行かれることを切に願いたします。